

はじめに

今年度も、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策に追われる年度でした。

今年度は、行動制限はありませんでしたが、オミクロン株感染拡大によりクラスターの発生もあり、その対応に苦慮した年でした。

入所サービスについては、外出禁止など徹底的な水際対策を実施・継続する一方、通所系サービスについては、サービス提供時間の短縮や提供時間帯の分散を行うなどし、事業を継続しました。また、施設内においては、ソーシャルディスタンスの確保、適切な温度・湿度管理を前提にした換気、利用者及び職員のマスクの着用・手指消毒など、基本的な感染症対策を徹底してきました。

また一方今年の日本経済は、コロナ危機が続いていたことに加え、ロシアによるウクライナ侵攻が発生したことから、原油や食料価格が高騰。さらには歴史的な円安が加わり、日本経済には悪材料ばかりというのが実状であった。今後は感染ピークアウトを受け主要地域の多くで徐々に悪影響が緩和され景気は再拡大に向かう見通しである一方、世界情勢の不安定要因からくる原油高などとともに円安による電気料金等の高騰による物価高により、計上経費高騰の傾向が続くことが予想される。

令和4年度は、コロナ禍における基本的な感染症対策を行いながらも、世界経済の不安定な情勢の中、さらに大幅な物価上昇も見込まれることを踏まえ、着実な経営を推進していきます。

法人全体の令和4年度決算は、事業収入は前年度比約3%増(約4億7千5百万円)で、事業支出は約0.1%減(約4億5千6百万円)となっています。

(1) 主な事業計画の取り組み結果 (概要)

ア 経営企画室

- ・経営会議を月1回開催し、法人経営についての協議を行い、適時課題等に対応した。
- ・適正な人員配置と適正な人事評価のため、特に定期評価の際、評価者が適正に人事評価が行える日数を確保した(冬期評価と定期評価の分離)。
- ・新卒者の確保のため、若年層の給与をアップし職場定着も図った。
- ・国家資格を取得している中途採用者の正社員任用を制度化した。
- ・産後パパ育休の創設など育児休業の充実を図った。

イ とりはた玄海園就労センター

《就労継続支援B型事業及び就労移行支援事業》

□堅実で効率的な経営

安定的収入の確保

特別支援学校からの実習生や体験利用者から5名の就労移行支援事業に繋がった。
祝日を9日間開所したことにより、延べ307人の追加利用があった。

新規利用の流れを確立

広報誌を利用した営業活動として、月6件の関係機関に配布。問い合わせや見学は増加(16件)。

各種加算取得に向けた取り組み

就労継続支援B型の来年度の報酬は、平均工賃2万6千円を超えたことで、基本報酬のランクを上げた。(551単位→572単位)

就労支援の強化・定着支援事業に関する取り組み(質と実績)

就労定着支援ソフト【SPIS】の継続使用により利用の定着、就職支援を図れた。

生産活動における事業拡大

就労支援事業(生産活動)収入としては、印刷・簡易・清掃部門で24,391千円、おやつ部門で3,410千円の収入。合計27,801千円の収入となり、前年度とくらべ6,800千円の増収となった。

就労支援事業(生産活動)

収入は、約2,101万円で、前年度から約277万円の減となった。

工賃の総支給額は約934万円(前年度約950万円)。

今年度の平均工賃は月額20,409円に留まった(B型事業+移行)。コロナ禍での作業量の減少と、在宅就労が影響した。

基本報酬は8ランク中6番目(2万6千円以上確保)。

印刷事業

官公庁発注分が12,981千円(前年から3,791千円増)。予算比108.2%と好調であった。

また、民間受注分も5,686千円(前年から2,450千円増)と好調であった。

簡易作業

簡易作業では、主力の園芸用品組立が668千円。予算比72.2%と低迷した。

ヤマト福祉財団からの助成で機材導入(シーラー機、金属探知機)が実現でき、ペットフード事業を開始した。

おやつ作業

バザーについては、6月から再開した。また、主力の学童クラブ向けおやつも順調に受注を受け、予算比101%を達成した。

施設外作業

皿倉清掃については、高齢化による参加利用者の減少や他作業の充実(ペットフード作業及びFシート作業等)を図るためR5.3で撤退した。

サービスの質の向上

精神障害者への支援を充実させる

臨床心理士によるSPISの活用方法の講義を継続した。

就労支援の充実

個々の就労ニーズにあわせ職場実習先を開拓(2件)し、7件の企業に見学に行き、職場実習に延べ3人が参加した。

利用者主体の活動を支援

4月から新規役員に変わったことから顧問の職員に加え、前自治会長にはアドバイザーとして自治会会議に参加してもらい、自治会役員が主体的な発言や検討ができるよう努めた。

工賃支給に関すること

工賃支給実績は年度末調整金を含み、総支給額は9,766千円。月額平均26,252円(福岡県に提出する工賃実績から算定)で昨年の実績から3,033円の増となった。

《就労定着支援事業》**□堅実で効率的な経営****利用者の確保**

今までの実績や細やかな定着支援の実施を企業や関係機関に向け営業活動を行ったことで企業側からの要請があり、他法人から就職をした2名を定着事業に受入れることが出来た。

□サービスの質の向上**個別支援計画の作成・充実**

月1回以上の訪問や面談を行い、経過を確認する中で計画作成時には相談支援事業所や企業側を交えた会議を開催した上で、希望やニーズに合わせた計画を作成した。

ウ とりはた玄海園 ここ Color 放課後等デイサービス**□堅実で効果的な経営****利用者の確保**

新規利用者1名、利用日増加(週1から週5)1名を受け入れた。

支援実績・専門職配置に応じた報酬(加算)の取得

必要な専門職を配置(保育士)し、児童指導員等配置加算取得の維持もできた。

□サービスの質の向上**重度自閉症児支援に対する環境整備(安全で安心して過ごせる環境づくり)**

自閉症支援のアドバイザー研修を継続し、専門性や支援技術の向上を図った。

良質な支援につながる記録類の充実

計画的にアセスメント実施。アセスメントに基づいて支援計画立案や自立課題作製。

専門職員の育成・研修

OJTによりチーム全体の自閉症支援技術の向上に努めた。また、「グループ別研修」で『構造化』を取り入れるにあたり、法人全体で自閉症支援の専門性向上を図った。

エ とりはた玄海園生活支援センター**□堅実で効率的な経営****安定的な収入の確保と収入増**

入所登録は年間通して40名満床であった。

入所利用者数は、延 14,263 人(前年比48人増)で利用率 97.6%、生活介護は、延 11,632 人(前年比 357 人減)で利用率 108.1%、短期入所は、延 305 人(前年比 48 人減)で利用率 27.8%、コロナウィルス感染症の影響から短期入所の受入れに制限が必要であった。

□サービスの質の向上**【日中活動の充実】**

創作レクリエーション活動のプログラム

コロナ感染症の影響により、レクリエーション活動は活動環境の工夫や利用者の状態変化の確認等、細やかな調整を講じながらの取り組みとなった。

利用者サービスの向上

前年3月の性的虐待を受けて、全職員を対象に計5回虐待防止研修を実施した。

利用者の健康管理

コロナワクチン5回目接種については、3月オミクロン株ワクチンを接種した。

食事提供サービスの向上

- ・7月夏まつりを開催し、行事食に餃子などの飲食コーナーも設けて満足度向上を図った。
- ・8月バスハイクに替えてデリバリー昼食を実施した。再実施の希望が多く聞かれた。
- ・11月屋上でバーベキューを実施し、39名の参加があり好評であった。

業務改善の取り組み

5月から週3回の男女1日入浴を開始した。

インカムの導入も同時に進め、タイムリーな情報の共有や業務指示を実現し、これまで頼っていた日々の業務分担表を廃止し、業務の効率化にも繋がった。

オ 戸畑障害者地域活動センター

□堅実で効果的な経営

安定的な人材と財政の基盤

- ① モニタリング時、取り組みの定着・リハビリ訓練の強化を目的に利用曜日増を提案し、5人の追加利用につながった。
- ② 個別の利用実績(予定)をふまえ、可能な範囲で追加利用を提案し、利用につなげることができた。
- ③ 特性をふまえ活用可能な加算種類の確認を行い、援護福祉に問い合わせをすることで加算取得につなげた。

設置目標の達成

【指定管理提案目標・計画】 計画値 13,991 人

延利用者数 11,282 人、(事業計画比では▲2,517 人)

【就労継続支援 B 型事業】

延利用者数 7,050 人、(事業計画比では▲1,345 人)

実利用者数 27.0 人

月額平均工賃額は 11,494 円。前年度より 850 円の増。

【生活介護事業】

延利用者数 4,017 人、(事業計画比では▲627 人)

実利用者数 13.3 人

【自立事業】

延利用者数 215 人、(事業計画比では▲545 人)

実利用者数 0.8 人

人材育成

法人の「3福祉士取得応援事業」に参加した1人が介護福祉士試験に合格することができた。

個別支援計画の充実

フェイスシート・アセスメントシートの様式を見直した。フェイスシートおよび障害特性シートは全数更新を行い、常に最新版をファイリングし誰でも活用できるようにした。

給食の提供

給食アンケート（嗜好調査）を8月と2月に実施し、要望のあった献立を「リクエスト食」として提供した。「リクエスト食」の提供は年18回。そのほか、月1回以上は季節を感じる行事食や誕生食などを提供した。保温庫・保温容器を活用して適温給食の提供につとめた。温かくておいしいと利用者から喜ばれた。

カ とりはた障害者相談支援センター

□堅実で効果的な経営

一定収入の確保

【新規利用者の受入】

年間10名の新規利用者の受入を目標。新規契約者数6名（前年度11名/5名減）

【加算の取得】

サービス提供場所を訪問し、利用者及びサービス提供場を直接確認することで、サービス提供時モニタリング加算の取得に努めた。

・取得件数 137件（前年度150件）

□サービスの質の向上

医療機関との連携

サービスの利用相談や、利用者の入退院支援、年金申請に関する受診調整等を通して、医療ソーシャルワーカー等と連携し、ニーズに沿った支援体制の構築や社会資源の情報共有を行った。また、個別ケースの通院同行やカウンセリングに同席。医療機関で得られた情報を関係機関に共有することで、支援法の統一を図った。

不足する社会資源の把握、関係機関との連携

相談支援事業所等連絡会議に参加し、必要な情報を共有する機会を得た。会議では、相談支援業務の区ごとで異なる対応に現場が混乱している現状を伝え、統一したやり方を事務分掌等で示すよう求めた。また、困難ケースに関しては、相談員の横の繋がりを活用しながら情報を各方面から収集したり、関係機関との連携強化に努めた。

多職種連携の取組

個別ケースに応じて多職種との連携を図り、情報共有のためのネットワークの構築に継続して取り組んだ。必要に応じて関係者会議を実施し、今起こっている課題の共有や、課題解決に向けて協議し、統一した支援に繋げた。

キ グループホームとりはた

□堅実で効果的な経営

利用者の確保

コロナ禍でもあり、外泊などなく利用は安定していた。しかし、1名の退所があったため前年比減(66人減)で延1,120人、利用率は94.2%であった。

事業所の展開

グループホームへの賃貸継続や賃料等、買い主への交渉に配慮したいとの話はあった。条件によっては、移転又は事業継続について検討を要す。令和6年度の報酬改定も含めて検討し計画していくこととなる。定員増のための部屋の貸数増を家主に打診したが、現状での増床は協力できないとされた。

□サービスの質の向上

職員間の連携・研修の実施

法人内のサービス管理責任者会議において情報を共有し、法人内のセンターから1名が入居に繋がった。

個別のニーズに沿った支援計画の策定

金銭管理や健康管理への助言が中心であるが、居室での家事については、清掃や洗濯、買い物支援等世話人の共同や同行支援により安定した生活を維持している。個別の課題に応じて必要な支援を継続している。

(2) 福祉事業活動について

ア 利用者数について

単位:人

		定員	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4-R3年度
就労センター	継続B	34	7,948	6,941	7,068	7,072	7,231	159
	就労移行	6	1,128	1,211	1,014	844	1,554	710
	就労定着	—	59	165	178	152	139	▲13
	放デイ	10	—	(98)	1,468	1,625	1,869	244
	計	50	9,135	8,317	9,728	9,693	10,793	1,100
生活支援センター	入所	40	14,065	13,860	13,986	14,215	14,263	48
	生活介護	40	10,952	11,160	11,386	11,989	11,632	▲357
	短期入所	2	609	619	160	353	305	▲48
	計	82	25,626	25,639	25,532	26,557	26,200	▲357
戸畑活動センター	就労移行	0	1,389	846	612	0	0	0
	継続B	33	9,055	8,946	8,343	7,888	7,050	▲838
	生活介護	18	4,487	5,038	4,103	4,258	4,017	▲241
	自立訓練	9	655	357	322	297	215	▲82
	計	60	15,586	15,187	13,380	12,443	11,282	▲1,161

グループホームと りはた	共同生活 援助	4	—	(515)	1,165	1,181	1,120	▲61
-----------------	------------	---	---	-------	-------	-------	-------	-----

※戸畑障害者地域活動センターの定員は、令和3年度変更

イ 障害福祉サービス等収入について

障害福祉サービス等収入の推移（決算）

単位：万円

	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4-R3年度
就労センター	7,319	7,332	8,432	8,786	9,848	1,062
生活支援センター	18,471	19,208	19,253	20,649	21,514	865
戸畑活動センター	13,990	14,585	13,227	12,551	1,1501	▲1,050
相談支援センター	577	567	630	712	531	▲181
グループホーム	—	219	473	560	536	▲24
合計	40,357	41,911	42,015	43,258	43,930	672

※内部取引消去前 放課後等デイサービスは就労センターに含まれる。

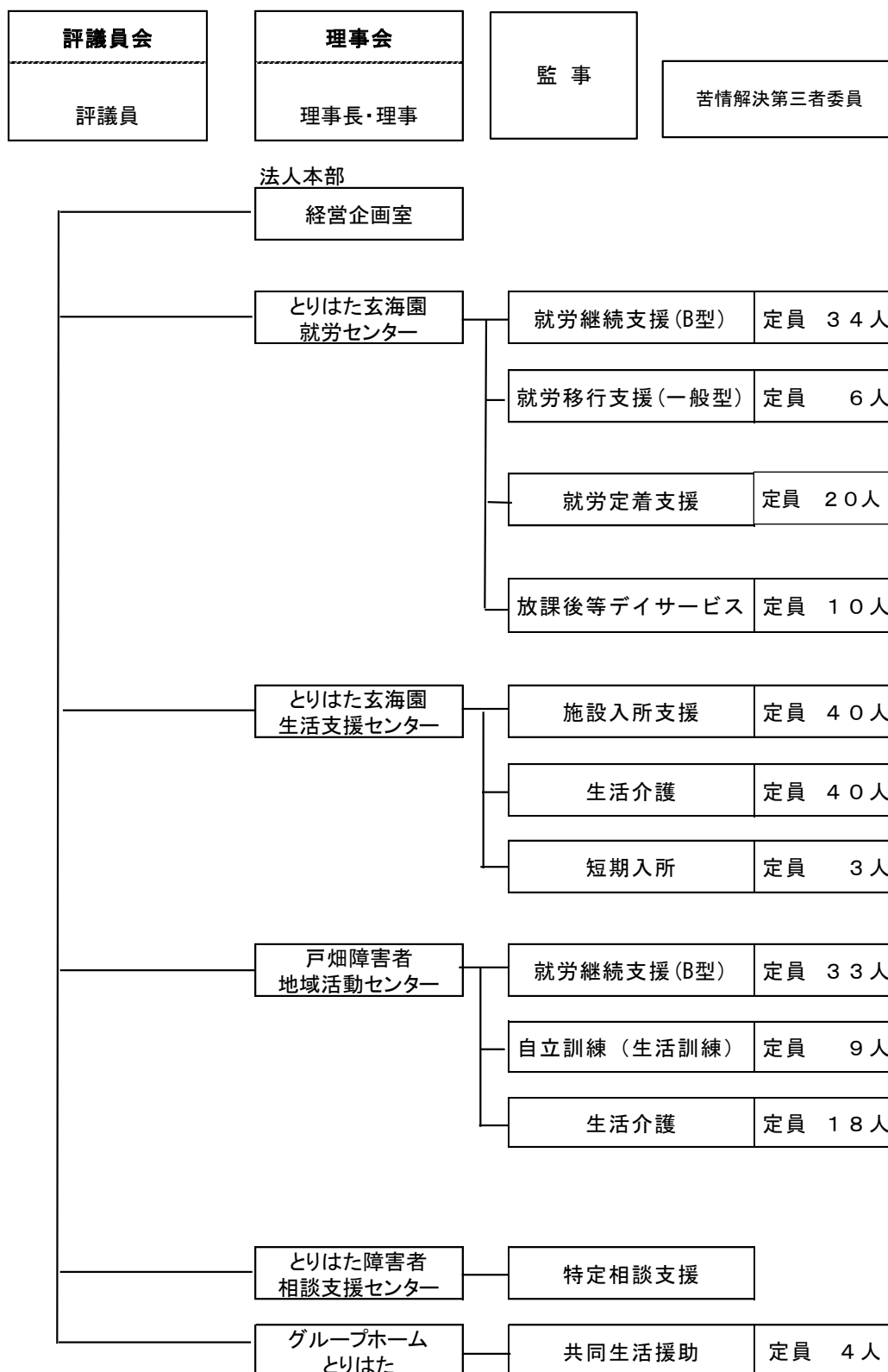
(3) 就労支援事業活動について

就労支援事業の総売り上げの推移

単位：万円

		30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4-R3年度
就労セン ター	就労移行	168	144	133	170	146	▲24
	印刷作業	2,315	1,725	1,962	1,612	2,275	663
	おやつ作業	375	368	283	319	341	22
	計	2,858	2,237	2,378	2,101	2,762	661
生活支援セ ンター	簡易作業	20	23	24	25	22	▲3
戸畑活動 センター	洗濯作業	359	346	368	325	441	116
	よろず作業1	156	91	45	436	324	▲112
	よろず作業2	567	461	386			
	パン作業	169	174	93	100	132	32
	自立(生産)	5	5	4	1	0	▲1
	計	1,256	1,077	896	862	897	35
法人計		4,134	3,337	3,298	2,988	3,681	693

法人の組織



(4) 主な事務事業の成果

(1) 堅実で効率的な経営

単位:千円

No	種別	事務事業	事業内容	決算額
1	新規	福祉・介護職員処遇改善臨時交付金及びベースアップ等加算	交付金及びベースアップ加算を原資に賃上げ(手当+定昇)を実施	(収入) 5,632 千円
2	継続	利用者工賃(年額)	就労 10,320 千円、生活 163 千円 戸活 4,413 千円	14,896 千円
3	継続	職員研修費	職員のスキルアップを図る 就労 756 千円 生活・GH113 千円 戸活 184 千円 相談 30 千円	1,083 千円
4	継続	設備整備借入金元金返済	生活支援センター建て替え時に借り入れた元金の一部返済(11年目)	2,760 千円
5	継続	在宅勤務に備えた環境整備	在宅勤務が可能な職務から試行本部(ノートPC、セキュリティソフト、wifi)他センター(リモート用PCリース)	120 千円

(2) サービスの質の向上

No	種別	事務事業	事業内容	決算額
6	新規	ドアタイプ洗浄機	食器洗い設備の更新	792 千円
7	新規	エアコン 43 台	入所施設の個室エアコン 43 台更新	5,255 千円
8	新規	モーターベットの購入	モーターベット 1 台購入	173 千円
9	新規	門扉・フェンスの整備	安全確保のための、入所施設の入口設備の拡充	3,520 千円
10	新規	床走行式電動介護リフト	腰痛対策の介護機器の導入 床走行式電動介護リフト	282 千円
11	新規	業務用冷蔵冷凍庫	パン工房用 冷凍生地導入に伴う設備の更新	795 千円
12	継続	地域貢献活動	手話カフェ、ボランティア講座他	32 千円

